

会議録

会議の名称	平成20年度第2回西東京市総合計画策定審議会
開催日時	平成20年7月25日（金曜日） 午後2時から4時まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎3階庁議室
出席者	熊田博喜委員、齋藤隆雄会長、浜昱子委員、松行美帆子委員、水谷俊博副会長、本橋定昭委員、渡辺進委員（50音順） （事務局）尾崎正男企画部長、柴原洋企画政策課長、古厩忠嗣企画政策課課長補佐、高橋泰彦企画政策課主任、増岡利典企画政策課主任 （欠席）奥野英子副会長、福田和昭委員、小林康男委員、栗村千代丸委員、高崎三成委員
議題	1 開会 2 会議録の確認について 3 市民参加に係る結果及び経過報告（案） 4 後期基本計画施策指標（事務局たたき台）について 5 新市建設計画事業、総合計画・前期基本計画事業の総括（中間報告）について 6 その他
会議資料の名称	(1)西東京市総合計画策定審議会平成19年度第5回会議録 (2)西東京市総合計画策定審議会平成20年度第1回会議録（案） (3)資料1 市民参加に係る結果及び経過報告（案） (4)資料2 後期基本計画施策指標（事務局たたき台） (5)資料3 新市建設計画事業、総合計画・前期基本計画事業の総括（中間報告） (6)参考資料1 西東京市後期基本計画案 中間答申（概要版） (7)参考資料2 説明会用展示パネル
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	

発言者名
発言内容

1 開会

齋藤会長

平成20年度第2回西東京市総合計画策定審議会を開催する。本日は5名欠席だが、定数を満たしているので会が成立する。

2 会議録の確認について

齋藤会長

まずは会議録の確認として、平成19年度の第5回会議録について前回各委員から指摘があり、それを事務局が修正したものが配布されている。これについて意見等があるか。ないようなので承認とし、確定とする。

続いて、前回の平成20年度第1回会議録について修正があればお願いしたい。ないようなので承認とし、確定とする。

3 市民参加に係る結果及び経過報告（案）

齋藤会長

5月下旬に事務局から市民参加の事業計画について提示があり、各委員から個別の指摘を頂いた。それを修正したうえで実施しているという報告を受けている。全てのものが終わっているわけではないが、これまでの実施状況を含めて説明をお願いしたい。

事務局

（資料1にもとづいて説明）

齋藤会長

今の説明について意見などがあればお願いしたい。

A 委員

7月3日に総合計画の市民説明会に出席した。説明会では後期基本計画中間答申をもとに説明をしていた。

しかし本審議会では基本計画の見直しが審議対象であり、基本計画では、「社会経済情勢の変化」「基本計画事業の評価」「新たに市民のニーズを踏まえて平成20年度に見直しをする」とあるのでここに視点をあわせて説明をしていかなければならないのではないか。その3点について説明を行っていけば、4日にわたる説明会で様々な意見が出ているが、それは全部クリアできると思う。

それから平成16年の基本計画を見直した表現として、「施策実現に向けたキーワード」としてまとめているが、それが平成16年のものよりもさらに具体的になり、この5年間を経て抽象的なものがより具体的に出てきた結果だと思う。従って、説明会としてはこの2つの視点で説明をすべきだったのではないか。

また、今回配布された資料3について、新市建設計画事業は、平成16年の基本計画の中の「合併記念公園」「コミュニティバスの運行」「地域情報化の推進」「ひばりヶ丘駅周辺のまちづくり推進」が重点施策として述べられている。この説明に「平成13年度

に新市建設計画を策定し、平成22年度までを目標としてスタートし、その後平成16年にその計画を包含した基本計画が策定された」というが、このことを市民のみなさんはご存知であろうか。

またこの基本計画から実際に事業を行う場合においては予算を伴うことになるが、基本計画と実施計画の関係について説明がないと、基本計画が理想的な話ばかりになってしまう。これらについて説明が必要である。

それから、10月のシンポジウムで計画しているパネルディスカッションのテーマについてであるが、大学の先生の基調講演の項目に従って問題点が出てパネルディスカッションをするのか、テーマをあらかじめ準備しておくのか明確にしておきたい。

それから、スケジュールについて、平成16年の基本計画を作るまでの流れと同じになっているが、今回は、この思考とは違う思考でなければならないのではないかと。今回は計画の見直しなので当然変わってくるはずである。この思考であれば、平成16年の基本計画とは別に新たに全部見直しとした基本計画を策定するという考えであれば納得できる。

齋藤会長

本質的なことで非常に盛りだくさんな意見を伺った。

確認しておきたいが、大きく2つの話があり、1つは見直しの問題、2番目は見直しをした結果をどう表現するか。

1番目の見直しの中で、3項目を挙げていたが、それについてもう一度確認したい。

A 委員

基本計画の38ページに「計画の期間」が平成16年度～25年度までの10年間の計画となっている。また、平成21年度から5年間は3つの要素で見直しをすることになっているのだから、ここに視点を合わせて話をしないといけない。

昨今国の方で議論されている問題として、地方分権改革推進法というものがあり、第1次勧告案が5月28日に出ている。秋には第2次の勧告が出る。インターネットで勧告案の概要を見ると、まちづくり土地利用規制分野については「自治体への権限委譲」などと書いてある。都市で重要なのは、都市環境の確保が、大きな問題であり、この権限の委譲ということになれば、市の裁量権が増えるので大きな問題となろう。そうすると、この基本計画で「みどりのまちづくり」というところも大きなテーマとして挙げており、具体的にどういう施策を行っていて、そしてそれを具体化するためにはどのようにしたらよいかを問題点として、市民の意見を聞くということが必要であると感じた。

そして今回の10年間の計画が次の段階への計画に反映するものということも出てくるのではないかと。この基本計画をもとに実施計画を行うには当然予算の制約があるから、事業の中で優先順位は出てくる。優先順位は、市長の政策や市の政策というものがなければつけられないから、この流れについて市はどう考えているのかということの説明していかないと、市民は理解も納得もできない。

齋藤会長

関連するところで意見を伺いたい。

B 委員

全体として、市民説明会での市民の方のご意見はごもっともだと思う。私自身、この説明のパネルや市民参加の内容を見て、同じようなことを感じる。市民参加について、ここまでできてしまったので変えようがないと思うが、次回の基本構想を作成するときに参考にする意見として、できればもう少し早く審議会にかけて頂きたかった。例えば小学生・大学生・シンポジウム・説明会などという枠組みが決まった段階で我々にかけても、少ししか携われないというのが問題である。どの時期にどういった方法で誰に対して何を目的に市民参加をやるのかということをもっと最初の段階で審議会にかけていただけたらよかった。

齋藤会長

それについて、市のほうで意見はないか。

事務局

率直にいうと、私どものほうで説明の仕方として色々考えた中で、新しい視点が入った上で全部説明するという形になってしまったが、むしろそれよりは見直した視点というところを重視してやればよかった。ただ一方では、箇所的に絞りすぎてしまうと、基本計画そのものが何なのかわからない方や初めて聞いたという方にはわかりづらいという面もあった。

A委員

私が言っているのは、基本計画の「環境にやさしいまちづくり」で課題とか実現に向けたキーワードの各条項を説明する必要がないということである。そして市は、合併からこういうことをやってきたと、平成16年から基本計画を作ってきて、今回見直しをした結果こういうところは具体的に表現するように出来たという事は、ひとつの説明のテーマだと思う。ヒヤリングをしたり、人口調査をしたりと、変化をしているという。今回でも安全の危機管理について1つ取り上げているが、そういったものは変化をしているから取り上げたという話はでてくるが、それとは違う見方で組み変えたということが必要なのではないか。ヒヤリングやりました、意識調査やりました、わかりました、だからどうなんですかという話になる。これをもっと突っ込んで整理し直せばうまくいくのではないか。

事務局

具体的な部分としての事業が言い当てられないので、施策に関する説明のみになってしまった。市民参加のやり方に関して、できるだけ時間をかけてご議論いただけたらということで、今後の反省材料として考えている。逆に、こういった視点も取り入れればというものがあれば、ご意見として伺えれば良いと思う。

A委員

市民の方には知恵がある。市が色々なことをやりますと言っても出来るはずがないし、それをみな分かっている。分かっているのだから、重点事項を示してやらねばならない。市の重点はこれです、と言っても、市民との相違が出てくるので、この辺がパネルディスカッションのテーマではないだろうか。今回の計画は、後期基本計画の見直しであるが、後期基本計画の次の段階の計画もある。これに対するデータも今回出てくる

といい。合併したときに新市建設計画ができて、数年後に基本計画があって、パラレルに動いたのと同じで、将来もそういうことがあっていいのではないか。

齋藤会長

最後におっしゃったのは、B委員の「次の基本構想を考えるための材料」でもいいというものが含まれても構わないということでしょうか。

A委員

そのとおりである。この10年間で全てが出来るはずがないのだから、繰り越しということが出てくる。それについて市民は、市が将来的なことを考えながら単年度単年度の事業をやっているということであれば理解してくれる。そうしないと、市はきれいごとばかりじゃないかと思ってしまう。

事務局

これからシンポジウムという仕掛けがある中で、議論のポイントというところでご意見を伺ったところも踏まえて対応していく。

A委員

講師の方が、どのような講演のテーマにしてくれるかということは事前調整してもらえなことと思うが、短い時間で西東京市全般のことを理解できるとは思えない。

齋藤会長

今のA委員の考えに全面的に賛成する。残った時間をかけてそこを実りあるものにしていきたいと思う。実はシンポジウムそのものがどうあるべきかということもしっかり詰めないと、実りのあるものにならない。B委員の考えのように、市民の意見を聞く段階でかなり用意周到にかかれないと、手法、時期や目的などを詰め切れなくなってしまう。

前回は申し上げたが、基本計画という性格のものと実施計画とは段階が違う。どこまで踏み込んで話ができるかというのが、この審議会での役割と思う。実施計画そのものについては審議会の審議対象ではないが、実施計画がある程度重点的に流れていくような方向付けは基本計画で作る必要がある。そういう点で、A委員の考えは非常に有益かと思う。

その点に関して、何か意見があれば。

A委員

市の議論のやり方というのがわからないが、一般的に言えば、基本計画を作って、このアイテムについてはどこのセクションがやるのかという話をしているが、そのアイテムをもとの担当部課が実施計画をするときに拠り所となるのは基本計画だと思う。基本計画の中では、そこで見解の相違があっては具合が悪いから、さらに具体的に表現をしたほうが良いということで、今回のキーワードというのは有効であると理解している。

市の考え方を実施計画で具体化していくときに焦点がずれてしまわないように基本計画で方向付けをしておくという説明をすれば、市民の方は理解してくれると思う。また3年間の実施計画で予算を組むとあり、その期間でなければ具体的な経費は充当するこ

とはできない。そこを説明すれば実施計画をもとに各課が事業を行っているのだから問題があったら各課に要望としてあげなさいと示しておけば意欲的に市の機能は動いているということがわかると思う。

D委員

今回様々な市民参加の仕掛けが動いていて、今後小学生・大学生含め、仕上げとしてシンポジウムという形となっていくが、このシンポジウムの位置づけを前回は確認ということで伺ったが、これを総仕上げのものとして使うのか、それとも今までのワークショップや市民説明会などで得た情報を開示しながら、そこで改めて、今後西東京をどういったようにしていくかという議論の場にしていくのか、その位置づけによって、資料1の内容についてもどう議論していくかというのが変わってくる。そこについて教えていただきたい。もしも完全に「お披露目の場」であれば、厳かにやっていくことが求められるので、あまりもめないほうがいい。しかし、何か新しいものを生み出そうという話であれば、若干その様々な意見出しというのをやる仕掛けにしてもいいのではないか。たとえば今回4回の市民説明会の中で様々な市民の方も極めて適切な意見を出されているし、今後小中学生・大学生のワークショップの中でも様々な感想が出てくると思う。こういうものを出来ればシンポジウムの場の中で開示していくなどして、そういったものを土台にしながらパネルディスカッションを行っていくということがあってもいい。

E委員

同じ意見である。また、B委員のおっしゃるようにお話をいただくのが遅かったかと思う。今回大学のワークショップは協力させていただくということになったが、もう少し早ければD委員もあり、より大きな輪が出来上がったのかなと思う。その辺が少し反省材料か。ただ、これが恐らくこういう取り組みは以前もやっていたかもしれないが、基本計画を見直して考えるということでファーストステップのような印象もあるので、今回の企画だけで終わってしまわずに継続して5年後につなげられるようなことを考えていければと思う。

齋藤会長

シンポジウムに関して、さきほどD委員のおっしゃった、どのような目的で行うかという説明をお願いしたい。

事務局

実際にこれまでやってきた内容を開示し、こういう内容で進んでいますというところを示し、その中で何か新しいものが生まれてくればよいと思っている。北川先生とはもう2~3度お会いする予定である。また、この案も本当に案段階なので、この場の議論を踏まえてこのようにしたいというのがあればそれは対応可能であるという答えをいただいた。

齋藤会長

ワークショップのような形で、そこから新しいアイデアを引き出すという場を主眼にしていると。そのようにシンポジウムを進めるとして、委員の方から何か要望はある

か。

B 委員

基本構想を次に作るのが平成26年であり、今の推計では西東京市の人口はそれほど減らないということだが、これからどんどん人口が減っていったら、この平成26年のものを作る頃に各自治体がどれだけ個性を出して人口を呼び寄せしていくのか、それとも身の丈に合った自治体になるのかという戦略が必要だと思う。私はこのシンポジウムを、次の構想策定に向けたスタートという形で、どのように西東京市の将来像を描いてゆくのかを主眼にして、どのような参加が可能かといったことを話し合えるスタート地点とするのもひとつの考えであると思う。

齋藤会長

今後5年間かけて作業するためのファーストステップという捉え方か。

B 委員

平成26年の構想を作ろうと言っても準備をしないと出来ない。その土壌を作ってゆくためのスタート地点という考えである。

D 委員

計画というのは物語のようなもので、終わりはない。次の一手を打つということは、今作っているものの良し悪しに関する議論ではなく、今後どうしていくかを視野に入れないと計画は常に後手後手になってしまう。一方で今回見直した後期計画はどこを直したということを市民の皆様にご理解ご周知いただくこととあわせて、次の一手をどう打つかということや、基本計画がどうあるべきか、その中で市民参加がどう考えるべきか、今後自治体の動向について北川先生はその辺りに明るいのでそういったことも含めて、今後どう10年後に向けて作るかということ意見を意見として出せる機会にしていければよい。

また地域性による取り組みについての先生の考えや、市民としてそれをどう考えるかというのがあってよい。総じて自治体が今後どうあるべきかという話も先生にさせていただきたいが、西東京市のような規模の地域がどのような課題を抱えていて、今後どういう取り組みをするのかということなど、西東京市に近いところの話を基調講演として話していただけるとよい。

F 委員

そのとおりだと思う。しかし「自治体の独自性」という言葉はあっても、具体的に施策の中に表れているかということ、なかなか見えてこない。北川先生には、全体の話はしていただけたらと思うが、私達西東京市として、市民の考え方であったり地域性だったりすることが具体的にあるので、皆さんに集まっていた場で本当に、西東京市をどうしようかという大きな構想の中の北川先生の今後のイメージを踏まえながら議論できる場にできたらよい。

齋藤会長

その辺りは、シンポジウムをこれから詰めていく段階で十分踏まえていただきたい。

今の段階でかなり意見や方向性が出ている。それを踏まえて、市とインテージ両者に考えていただきたい。次の議題にうつる。

4 後期基本計画施策指標（事務局たたき台）について

齋藤会長

前回審議会で議論のあった項目だが、事業や指標の設定についてたたき台として事務局で作成した案があるので、説明を願いたい。

事務局

（資料2にもとづいて説明）

これはたたき台なので今後変更の可能性がある。本日議論していただきたいのは、例えば創1-3の指標は本当にこれでとれるのか、もっと違う指標があるのではという指摘などをいただけたらと思う。

齋藤会長

それは施策を策定していくための事業選定や、達成度をどのくらいできたかというのをはかっていく上で大事な議論となっていく。これについて意見はあるか。

A委員

これは例えば、平成16年の基本計画で言えば施策項目、課題と施策内容とをディスプレイしたもので、今回の見直しに当たってはディスプレイではなくその結果を評価して事業を進めてゆく上での施策指標であるという認識だが。

事務局

この施策指標にこれから数値をつけてゆき、平成19年度はこれくらいの数だが次の計画までにはここまで伸ばしたいあるいは伸ばしましょうという目標のための数値である。前期計画の中では無かったために、これを新たにつけ加える考えである。

A委員

そこがポイントである。個々のことも大事であるが、どうして行ったのかというのをアピールし、皆さんに示すというのが大事である。目的を施策指標の冒頭に書いておけば良い。次にある基本計画をどのように見直しをするかというのがポイントであるならば、この指標を作った意味を意思表示することが重要である。

齋藤会長

それはこの項目の議論ではなく、後期基本計画の中に「新たにつけ加えている」という事を言いなさい、ということか。

A委員

そうである。いきなり細かいことを言われても聞く方はわからない。何を狙いとして行っているのかを冒頭に述べる必要がある。

D委員

今回示していただいた施策指標として様々な形で設定がされているが、ひとつ確認したい。指標としてとる場合、客観的指標と主観的指標とがある。おそらく市民満足というのは主観的なもので、何人来たかというのは客観的指標であると思うが、そういった主観と客観をどのような考えで置かれたか。たとえばこれは主観でしかとれないから主観にした、とか、そういった指標の設定に際しての考え方などはあるか。

事務局

基本的に、若い番号順に市民満足度を置くようにしている。主観的なところを多く聞くようにして、それを支えるための事業目標をつけるようにしている。だができないものもあり、例えば創1の「人権尊重と平和意識」はできなかったが、創2で市民満足度という主観的なものを聞いて、それに対する客観的データを入れるようにしている。

D委員

たとえば創1-1-1だと、人権尊重意識を高めるということで、人権尊重事業の参加者数という客観的指標。創2-2-1だと子育て支援サービスの充実ということで指標は主観的なものになっている。だが、これは客観的な指標でもいいのではないか。たとえば何かサービスの利用度が高まったという統計を出して客観的指標を出すこともできる。満足というものについてはどのような考え方をもって理解すればいいかとか、数で出されている場合はどうやって読めばいいのかという部分がわからないといけない。指標を全部満足度の面で設定することもできる。これの指標に関しては主観よりも客観的な設定がいいのだと主観的に決め付けてしまっただけでは指標にならないので、判断の分岐線が必要である。

事務局

基本的に、事業群の3-2-1などと、若い番号ほど総論を言っている。総論部分は満足度でとっているものが多く、それを実現するための施策を客観的指標としてつけている。

D委員

総論を主観で、各論を数値にしたいと。逆にそういう読み方をしなければまずいということか。

事務局

そうである。だが並列的な事業に関してはできないところもあった。

斎藤会長

今の客観的データのように、あらかじめ目標を設定し達成したかという評価もあるかもしれないし、あるいはある時期にデータを取り、何年後かにまたとったデータと比較するという場合もあるかもしれない。そういった評価の設定を具体的にどのように考えているか。

事務局

現段階では少なくとも各課に確認をとっているもので、数値としてはおさえられてい

る。5年後にはここまで伸ばしたいところを各課と十分議論をして、伸ばすための施策、事業内容にするのだという論理にしたい。アンケート調査だと毎年できない可能性が高い。

E 委員

私は建築設計をしており、図書館など設計したときに、来館者は無料で利用されるので意外と指標評価は難しいのだが、たとえば一人来館することでどれだけの利益を還元できたか、それを例えばお金で表したりする。つまり指標の数の表し方も絶対的な数だけでなく色々工夫できたらよい。数字を見ただけではわからない部分もあるので、何がいいのかをわかるように盛り込めていけたらよい。

B 委員

市の予算は大体決まっています、今後も増えることはないと思う。しかし、たくさん予算をつければ増えるものはたくさんあると思う。たとえば市民祭り来場者数などは、芸能人を呼べば増えると思うが、果たしてこれらを全て上げる必要があるのかという議論がある。また予算が限られているので、本当に大事なところだけ上げて、そうではないところは現状維持にするという議論が必要なのではないか。

それから事業群内容の評価を、この施策指標というもので全てを表せない。というのは数値化できるものしかここに入っていないので、その点は最初に注意書きを書いておく必要がある。

事務局

ご指摘のとおり全部が確実に、予算規模で増えるか減るか均衡か議論する余地があると思う。必ずしも全部増やせればよいということではない。今回はあくまでも項目出しになっていて、その点説明的でない。

もうひとつご指摘のとおり、一つの事業でも事業群内容を象徴するかということそういうものだけはないが、あくまでこれは「中心的な内容と思われるもの」かつ「数値としてとれるもの」としている。それは本文に書き加えたい。

F 委員

いま話されている事業群の内容とこの施策指標の関係について。一番気になるのが事業及び手法内容というのが載っているがその事業群の内容において、現在考えられている事業及び手法内容というのが全て挙げられているのか。例えば協1-1-2で、コミュニティ活動を支えるため場・機会・情報の提供を進めますというところで、事業内容が市民祭りとなっているが、コミュニティ活動を支える場として市民祭りだけとはすごく単純に思える。

事務局

実施計画において、既に協1-1-1の中に市民祭りの充実というのがある。ただ指標としては若干意味が通りづらくなっているので考慮する。

事務局

指標案として整理していくと114となった。しかし実際の計画の中には300程度事業が

あり、事業群としては1対1の事業というわけではなく、2本3本合わさった中で代表的に取り上げられるということで、この114に整理されている。その中で測地的に見て何かおかしいという指標の感覚などがあればご意見いただきたい。

コミュニティ活動を支えるための場という事業群の中に市民祭り実行委員会が入っているのは事業として、他にもコミュニティ施設やもっとイメージしやすい事業もある中でこれだけが指標として出ている。その辺はご意見を伺う中で、指標を固めていきたい。ただ、ご指摘のとおり「全部増やせばいいのか」という根源的な部分をどう扱うかというのは今後も検討していかなければならない。市民祭りに関してはそういう事情があり、事業もこれで全てではないということを理解いただきたい。

齋藤会長

事務局に伺うが、先ほど「指標案としては114までであるが事業としては300程度ある」のだとあったが、その300程度の事業について全部同じ様に指標を設定するのではなく114程度に限るということでよろしいか。事業がこれで全てではないとおっしゃったのは、例えば103番なら「事業及び手法内容」に「市民祭り実行委員会への支援」とあるが、これが全てではなくこれ以外にもあるということか。

事務局

その通りである。

齋藤会長

大事な部分であり、先ほどA委員がおっしゃったように、これがひとつの新しい試みとして特記すべきことではあると思う。そうすると、指標についてこれは適切かあるいはもっといいものがあるかという話は皆さんから意見を吸い上げる仕組みが出来るか。次回審議会というわけにはいかないで、気がついたところを頂いたほうがよろしいと思う。何か提案はあるか。

事務局

もっと違う指標があるのではないかとか、そういったアイデアがあるといい。それを何とか事業につなげていきたい。今回の指標案は検討している事業をもとに作ったところである。他の事例等を見ながらバランスよく取っているのだが西東京市の独自性というところでこういうのがあったらいいのではないかとといったものがあればご指摘いただきたい。

齋藤会長

ファックスかメールで、企画政策課宛にこれに関するコメントを自由な形で送るということにしたい。細かい議論を一つ一つしていても、全体で議論する意味が無いと思う。

B委員

例えばまちづくり交付金などを活用して今までなかったものを新しく作るというのは、結構大きな事と思う。そういった0か1の指標ではあるものも入れてよいのか。

事務局

そういう場合もあるが、あまり宜しくない。なぜなら「やった」で終わりになってしまう。できれば「まちづくり交付金を活用して、このようにしたい」ということであるならばよい。

例えば8番の「子どもの権利に関する条例の策定」とあり策定でおしまいになってしまうようだが、本当はそうではない。策定をして何かが変わらなければいけないので、その先の方向性が書ければよい。

斎藤会長

それだけで評価するという意味ではなく、さきほどの主観と客観の総合的評価というのがあったが、総合的に評価するひとつの方法として、助成金なり交付金が出たかという情報はあってもよいのではないか。例えば目標値に到達したということが、それが果たして交付金があったからなのか、交付金がなくても増えたのかとでは意味が違ってくる。そういう意味で、交付金等の情報があっても構わない。

事務局

今回後期の5年間の計画であり、表記の仕方が問題である。

斎藤会長

さきほどE委員からも予算の話が出たが、その問題は大きい。どれほど投入したかどうかによって目標値は変わる。

気がついたことをファックスやメールで市の方に寄せていただきたい。

5 新市建設計画事業、総合計画・前期基本計画事業の総括（中間報告）について

斎藤会長

前回審議会で話題になったことであるが、これについて説明をお願いしたい。

事務局

（資料3にもとづき説明）

斎藤会長

何かあれば意見をお願いしたい。これは報告事項であるので、特になければ次の議題に移る。

6 その他

斎藤会長

次回審議会の日程について。スケジュール的には9月下旬となっているが、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

次回第3回審議会開催日程についてであるが、9月は議会が開催される予定となっており、議会終了後としたいが、本日欠席の方もいるので、みなさんのご都合を聞き改めて調整したい。

齋藤会長

副会長が2人休まれると困るので、皆さんのスケジュールを聞いて調整することにする。時期的には9月下旬、候補として22、26、29、30日がある。具体的には各委員の予定を聞き、事務局の方で調整願いたい。他に何かあるか。

事務局

今日最初の議題で、大学生のワークショップを開催したという報告があったが、来週29日に市内のフィールドワークを行ない、その成果を発表するのが8月6日の午後1時から503会議室である。3班ほどで街を見た結果を発表する。

齋藤会長

以上で本日の審議会はこれで終了とする。お疲れ様でした。